

かながわ
の本



・丹野 勲 著
・御茶の水書房
・☎03(5684)0751
・1296円

骨をうずめた先駆者

戦前の南洋日本人移民の歴史

明治から昭和初期にかけて、日本人は移住や出稼ぎを目的に海を渡り、南洋群島やオーストラリア、ニューギニアを目指した。その壮大さ。「すでに明治一〇年代の後半から、北米、カナダなどに渡航するようになっていた」という記述に驚く。当初はサトウキビ栽培のほか、真珠貝採取の潜水士のような危険を伴う仕事にも従事したという。

貿易業を営んだ横尾東作ら、先駆者を巡る記述が興味深い。その一人、森小弁は明治中期に横浜港から出帆。トラック諸島で在留邦

人向けに日用品を商うとともに、現地人のため自費で学校を設け、住民代表も務めた。言葉や文化にも精通し現地の女性と結婚した。「南洋の土たる覚悟をもって渡航し、しかもこれを文字通り実行した稀有な日本人南洋移民」だった。

南洋には、ニューギニアのように太平洋戦争中は激戦地となった場所もある。戦中戦後の人々の動きを追った続編にも期待したい。

「神奈川大学評論ブックレット」の第40巻。著者は同大学院経営学研究科委員長。(斉藤 大起)